

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称	令和7年度第4回ふじみ野市社会教育委員会議常設専門委員会			
開催日時	令和8年3月3日（火）開会時刻 午後2時00分 閉会時刻 午後3時40分			
開催場所	ふじみ野市役所第4庁舎2階 D201会議室			
出席した者の氏名 （委員8人中 8人出席）	役職名	氏名	役職名	氏名
	委員(委員長)	石川 健一	委員	小澤 真樹
	委員(副委員長)	山口 ゆかり	事務局(課長)	木村 裕之
	委員	中 窪 由香理	事務局(副課長)	鍋 島 直 久
	委員	江 科	事務局(副主幹 兼地域学び係主査)	松 原 秀 洋
	委員	齊 藤 宏	事務局(社会教育係長)	笠 掛 裕 子
	委員	長谷川 節子	事務局(地域学び係長)	松 島 弘 泰
	委員	岩 館 豊	事務局(社会教育係主任)	近 藤 彩 香
会議の議題	(1) 議事 ① 令和7年度事業進ちよく状況及び令和8年度事業計画について ② 旧利用者懇談会について (2) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	3人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	教育部 社会教育課			
議事の確定	確定年月日	令和8年3月17日		
	記名押印	役職名 委員長 石川 健一 ㊟		

別紙

発言者	発言の要旨
教育長	(会議開催前に教育長より、社会教育委員会常設専門委員に向け、お礼の挨拶を行った)
事務局 (笠掛係長)	開会の挨拶 ・出席者 専門委員 8名で会議成立の報告 ・傍聴者 3名の報告
石川委員長	1 開会 開会にあたって挨拶
事務局	・配付資料の確認
石川委員長	議事進行 2 議事 (1) 上福岡西公民館閉館に伴う事業のあり方について
事務局 (松島係長)	資料1に基づき、令和7年度事業の進捗状況の報告及び令和8年度事業計画について説明。
石川委員長	新年度の公民館事業については令和7年度の事業を踏襲するということになった。社会教育法のなかの公民館事業の考え方にに基づき「いわゆる公民館事業」として「公民館」という名称も使用していくことになった。 「踏襲」ということだが、参加者の声や市の考え方を踏まえ、より良くしていくものである。 何か意見等があるか。
齊藤委員	資料1の3列目「予定通り」と記載されているのは、社会教育としては安心する部分である。 前回の会議資料(上福岡西公民館閉館に伴う事業のあり方について)のなかで事業を3つの課題別に振り分けるということであったと思う。今回の事業一覧に示されている39の事業は均等に3つの課題別事業(地域課題解決事業、生活課題解決事業、文化関連事業)振り分けられているのか。
事務局 (松島係長)	市民文化祭事業と地域文化振興事業については文化関連事業となる。他の階層別事業をどのように分けるかであるが、事業一つをとっても、どのような目的を持って実施するかで、生活課題なのか地域課題なのか、明確に分けられるものではない。 事業名称ではなく事業の中身で分けていくものなので、この場でこの事業が生活課題、この事業が地域課題と示すのは難しい。 今後、講座等を計画する時は意識して計画していきたい。

齊藤委員	階層別で事業を行っていたが、3つに事業を振り分るなかで、文化関連事業は分かりやすい。地域課題と生活課題はどのように分けていくのか。生活課題も大事だが、今後の社会教育を考えると重視していきたいのは地域課題であると感じる。そのうえで事業をどの課題にあてはめようとしているのか興味があったので質問をした。これからはどの課題にあてはまるのか意識して事業を行っていくのが良いかと思う。
石川委員	ほかに質問等はあるか。
長谷川委員	<p>先日、市報にも掲載されていたが、自転車のルールが変わるということである。「市民と交通ルールを学ぶ」という事業が行われ、ふじみ野市長も出演しているテレビニュースを視聴した。そのような事業が実施されていることを知らなかった。どこの課が担当されているのか分からなかった。</p> <p>「ルールが変わると言ってもどのように変わるのか、何が違反になるのか分からない」という声があったため、事業開催に至った」と市長がおっしゃっていた。</p> <p>良い事業だと思った。</p> <p>生活課題や地域課題は重なっているところがたくさんあると思う。今後社会教育事業を提案していく時に役割や基盤が、いまいちはっきりしないと思っている。</p> <p>自転車の事業はどこが担当していたのか。</p>
事務局 (木村課長)	<p>道路課交通安全係が担当である。</p> <p>いわゆる公民館事業として開催されていれば、情報の提供もできたのだが、詳細を把握しておらず申し訳ない。いわゆる公民館事業は主に市報の「学びの輪」のページに掲載される。</p>
長谷川委員	<p>市内の小中学校でやっている、交通ルールの事業は学校教育ではと思う。</p> <p>テレビ番組でやっていた交通ルールの事業は地域の人も参加できているものであり、社会教育のようにも思う。</p> <p>社会教育として共有できたらよいのではいかと感じた。</p>
石川委員長	<p>小中学校でやっている交通安全教室は市の交通安全担当が出向いている。</p> <p>子どもたちではなく、大人たちをどうやって指導していくのかは難しいところがある。</p>
山口副委員長	地域にも交通安全教室は呼べると良いと思う。
石川委員	自転車ルールについて、文京学院大学ではいかがか。
岩舘委員	学生達は新しい自転車のルールのことは分かっていないと思う。大学でどのように周知していくかも聞いていない。
石川委員長	ほかに質問等はあるか

山口副委員長	<p>公民館で、小学校のパソコン授業の支援する講座を受けた後に、小学校に派遣する事業があったと思う。</p> <p>実際に受講したお母さんと知り合いになって、話を聞いたが、受講したお母さんが、また新しいお母さんを誘っていたりした。市民が学んで輪が広がっていくことが嬉しいと感じた。</p>
岩館委員	<p>21の陶芸学科が窯の都合で休止になったとなっているが、ステラ・イーストに窯があり、陶芸学科がイーストの窯を使おうと思ったが、すでにステラ・イーストの利用者が使っており、使用できる時間帯がないため休止となったという理解でよいか</p>
事務局 (松島係長)	<p>その通りである。窯のスケジュールは既存の一般利用者と代替施設利用者で、すでにいっぱい、陶芸学科が入り込むことができなかつたため休止となった。新しい文化施設に窯が出来れば、そこでまたやることもできる。</p>
岩館委員	<p>38の生活課題事業はどのようなことをやったのか。</p>
事務局 (松島係長)	<p>今年は「ウェルビーイング」をテーマに文化協会と連携して、文京学院大学の小林先生を講師にお招きして実施する予定である。</p>
岩館委員	<p>その場合の生活課題はどういう課題になるのか</p>
事務局 (松島係長)	<p>「ウェルビーイング」なので幅広いテーマになる。「良く生きる」ために、ストレスを自分で解消する術を身につけるという意味で生活課題になる。</p>
岩館委員	<p>課題を捉えて事業を展開していくということなので、例えばこの事業はどのような課題を捉えているのかを伺いたかった。</p> <p>公民館がなくなり「特定の施設に捉われず展開していく」という移行期であると思うので、公民館という施設に捉われない状態でやっている移行状態の事業の進捗把握や評価が必要だと思う。</p> <p>ステラ・イースト、ウエストに移行するなど、特定の施設に捉われず事業展開することによって、できなくなったこと、逆にできるようになったことなどの現状を知りたい。</p> <p>社会教育主事が派遣されているので、ステラ・イースト、ウエストでの実態把握ができていますか伺いたい。</p>
事務局 (松島係長)	<p>令和7年度の途中からの活動場所の移動であり、まだ試行錯誤であることがたくさんある。西公民館では、物理的な面で言えば、部屋の融通が効いたり、物の保管ができることで片付けや準備などがしやすかった。自分たちが管理している館で事業を実施するのと、施設を借りて実施するのでは大きく違うと感じるところである。</p> <p>また、公民館の時は、土日も職員は出勤していた。現在は、特に土日の事業は担</p>

	<p>当一人のみが出勤となり、片付けから準備まですべて一人でやっていること、事業実施場所まで移動することなどの負担などもあり、複数体制で実施するかなど、体制の変更も課題であると認識している。</p>
岩館委員	<p>物の保管ができないというのは、継続的な活動を行う上では大きな課題と理解する。</p>
事務局 (松島係長)	<p>一部の物品はステラ・イースト、ウェストに保管させてもらっているものもあるが、持っていくものは少なからずある。</p>
岩館委員	<p>移行期によって今のような課題があるということなので、この場で話し合えればよいと思う。また、現場でどういったニーズがあるかなどを把握することで、社会教育事業を計画していくうえでは重要になってくるので共有できればと思う。</p>
事務局 (松島係長)	<p>職員間でも窯のスケジュール等、半年やってみて、「今までと同じようにはいかない」と課題として認識している。社会教育委員の皆様とも共有してどのように解決ができるのか、相談したい。</p>
岩館委員	<p>積極的な意味で施設に捉われず事業展開をしていくという意義があったと思う。公民館がなくなったから出来なくなってしまったというのは理屈としてはおかしい。施設に捉われないから、色々なことができるはずだった。</p>
齊藤委員	<p>現実的には出来なくなってしまったこともあると思う。 出来なくなってしまったことをどう解決に持っていくかということが必要である。現場で出てきた課題に対して話し合いをしていければ良いと思う。</p>
石川委員長	<p>18番の「健康のための体育学科」はどのようなことを行っているのか。</p>
事務局 (松島係長)	<p>ボッチャ、卓球、ぴんしゃん体操などをスポーツ推進委員の指導で実施している。</p>
石川委員長	<p>ちなみに「体育」という言葉は学校でしか使っていない。「スポーツ」に変えた方が良いかと思う。法律改正においても「体育」という言葉は使わなくなった。 事業にスポーツが入っているのが、異色に見えるかもしれないが、上福岡公民館の時も、「バドミントンをやりたいから指導者を出して欲しい」と依頼されたことがある。出会う場を作っていると感じる。公民館活動はこれではなければならない、ということはない。一方どれだけやればいいのか、という部分もあると思うので、そこはニーズに合わせて、となるかと思う。</p>
岩館委員	<p>移行期に生じる課題を委員として把握したい。地域課題・生活課題をこの場で共有できればと思う。ふじみ野市で暮らしている人々がどのような課題を抱えているのかを捉えて事業を作っていくことが必要だと思う。</p>

山口副委員長	公民館の時は利用者との会話のなかで把握することもできた。
岩館委員	課題をどうやって拾うのかも考えなくてはならない。
石川委員長	公民館が上福岡西公民館だけになった時に、大井中央公民館や上福岡公民館の声はどのように拾ったのか。
事務局 (松原副主幹)	上福岡西公民館は閉館にあたり利用者に説明会を実施している。その際にいただいた御意見を踏まえて、上福岡西公民館で代替施設の利用を支援させていただいた。 現在、ステラ・イースト、ウェストに社会教育主事を派遣し、活動が安心して継続できるよう引き続き支援させていただいている状況である。
石川委員長	公民館という館がなくなったなかで、いわゆる公民館事業をどのように企画立案していくのか、意見はあるか。
長谷川委員	次の議題にもあるが、やはり利用者懇談会などでの意見を活かしていくのが大事だと思う。
山口副委員長	事業実施後のアンケートなどを活用して「今の生活の中で不安に思っていることはあるか」など聞いてみるのもよいのではないか。上手く活用していただきたい。
小澤委員	ステラ・イースト、ウェストの社会教育主事の派遣の頻度などは、どのようになっているのか。
事務局 (木村課長)	社会教育主事の派遣については、令和7年5月7日から開始しているが、始めはステラ・イーストとステラ・ウェストを交互に行っていた。 その後上福岡西公民館が閉館となり10月21日からは、土日月を除く平日、1名の職員をステラ・イースト、ウェストに主事の配置している。 主事が派遣されている時には、主事が在席している旨を表示している。
小澤委員	決まった職員が派遣されているのか。
事務局 (木村課長)	決まった職員が派遣されているわけではない。上福岡西公民館にいた職員が順番で派遣されている状態である。
小澤委員	夜間の時間帯は派遣されているのか。
事務局 (木村課長)	夜間の派遣は行っていない。
小澤委員	いつも施設の利用が夜間の方もいると思うが、そういった方たちは社会教育主事には会えないことになる。

山口副委員長	私達社会教育委員は、社会教育主事に会えないのか。
事務局 (木村課長)	社会教育委員の事務局では、近藤が社会教育主事である。
事務局 (近藤主任)	社会教育課の職員として、社会教育主事の発令をされているが、私はステラ・イースト、ウェストには派遣されておらず、実際に派遣されているのは、上福岡西公民館に配属されていた職員である。
山口副委員長	派遣されている社会教育主事と、利用者からどのような意見があったか、など情報を共有するような会議はあるのか
事務局 (木村課長)	利用者からの意見などは、日報などに記入し、共有している。 また派遣を行うようになったことで、文化施設の職員とも情報共有ができるようになった。いわゆる公民館事業と文化施設の実施事業、お互いの事業の実施の様子を知れるようになった。社会教育側の考え方を理解してもらえようになったと感じているが、一般の利用者の方の御意見を十分に収集できる状態には、まだ時間がかかると思う。
石川委員長	施設を管理する市役所の課は、月に1度くらいの頻度で施設側とモニタリングを実施していると思う。その中には利用者の声もあるはずなので、社会教育課と情報共有できれば良いと思う。
社会教育課 (木村課長)	おっしゃる通りであると思う。 担当課は文化・スポーツ振興課なので、情報共有に努めてまいりたい。
岩館委員	市民のニーズや課題の把握の仕方だが、主事派遣や利用者懇談会の把握のほかに、色々な場所で掴めているニーズ等の把握をしているはずである。ニーズ等を蓄積していく仕組みを構築するための議論が必要と考える。いわゆる公民館事業が上手いくかどうかは、ニーズ等をどれだけ把握できるかであると思う。
石川委員長	議事進行 (2) 旧利用者懇談会について
事務局 (松島係長)	事務局資料2に基づき、旧利用者懇談会について説明。
石川委員長	当時の利用懇についての様子を知っている方がいたら、御発言をお願いしたい。 山口委員いかがか。
山口副委員長	心配蘇生術なども利用懇の人たちが自ら学んでいた。
石川委員長	先ほどの自転車のルールを学ぶような事業が必要だ、という声を聴ける場であったのではと思う。または施設利用にあたっての使い勝手なども話していたのではな

長谷川委員	<p>いか。</p> <p>前回の説明では「(仮称) 地域学び連絡会」の提案があったが、今後、専門委員会でのような利用者懇談会のようなものがよいのか議論していきたい。</p> <p>社会教育を理解している団体が入ってくれるのが望ましいと考える。</p> <p>以前、七宝焼きの団体に所属して上福岡公民館を利用していた。ある時公民館から七宝焼きの教室を開いてほしいとの依頼があった。普段は自分たちの活動をしているが、その日は市民の方が七宝焼きをするためのお手伝いを行った。</p> <p>その他に、自分達だけの楽しみではなく、普段使わせてもらっているのだからという気持ちで公民館事業を引き受けていた。</p> <p>また、七宝も窯を使う。窯の利用についても利用者懇談会で話し合いをして調整をした。</p> <p>メンバーが固定化すると新しい人を受け入れにくくなることもある。七宝焼きを公民館でやりたい人が現れた時、公民館利用者としてメンバーを固定化するのではなく、受け入れるために利用者懇談会の中で話し合い解決を図った事例もある。</p>
石川委員長	<p>各施設に利用者懇談会を設置するのは困難と考える。ふじみ野市らしい懇談会が作れば良いのではないか。</p> <p>地域学び連絡会の提案も事務局からあったが、本日の議論の中身も踏まえて、次のステップに進みたいと考える</p>
岩館委員	<p>若い世代が入れるとよい。</p> <p>生活課題・地域課題に関わるかもしれないが、大学でもサークルや部活が潰れている。学生自治会も学園祭の実行委員会も維持できない。時間的な余裕がなくなっているのもそうだが、集団を作って何かをやる経験が不足していて、個人で解決するものだと思っているところがある。</p> <p>グループを作って何かを学ぶとか、課題を解決するという経験が不足しているように思える。特定の組織に属するというのもハードルが高いと思っている。</p>
石川委員長	<p>自治組織やPTAでもそうだが、担い手を考えた時に課題となっている。学生に期待したい部分でもあるが、今のお話を聞くと難しいことのようにも思える。</p>
中窪委員	<p>今の子ども達は、自分の知りたいことはネットで調べて解決している。他人との接触を煩わしく感じているところがあるのかもしれない。</p>
山口副委員長	<p>情報は溢れているが、自分の興味のあることしか調べないのは問題である。嫌な事をどう解決していくか、解決には仲間が必要であるという経験もさせたい。</p>
江委員	<p>ネットから学んで自分と気が合う人とだけ学びたい。気の合わない人と協力して何かをやるのは時間がもったいないと感じているようだ。</p> <p>外国籍の子達もA Iで答えを出してしまい、自分の頭では理解ができていないこともある。</p>

	<p>自分と立場や意見が違う人と、どうやって一つの目標に向かって一緒に上手くや って行くのが課題である。</p>
石川委員	<p>今の話を受けても、課題が多くあることに気が付かされる。社会的にそのような 傾向が強い。社会教育でそれをどう変えていくか、課題である。 次回の会議からはその部分も含めて話し合っていきたいと考える。</p>
事務局	<p>進行 3 その他 ・追加資料の確認 ・社会教育委員継続の依頼</p>
山口副委員長	<p>4 閉会 閉会にあたって挨拶</p>